

これからの情報科について

富山県教育委員会県立学校課
指導主事 野 崎 悟

富山県高等学校教育研究会情報部会の研究紀要第7号の発行にあたり、改めて会員の皆様方のこれまでの実践研究の取り組みに対し、深く敬意を表します。

教育の情報化の推進は、21世紀にふさわしい学びと学校を創造する鍵と言えます。新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域で基盤となり、重要性を増す知識基盤社会において、教育の情報化は、我が国の子どもたちが21世紀の世界において生きていくための基礎となる力を形成するために大きな意義を有しています。

平成21年3月に告示された新学習指導要領は、この点を重視し、変化の激しい社会を担う子どもたちには、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた「生きる力」の育成が重要となっており、確かな学力の育成には、基礎的・基本的な知識・技能の習得、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等及び主体的に学習に取り組む態度等をはぐくむことが必要であるとしています。

新学習指導要領における共通教科情報科においては、情報教育の目標である、①情報活用の実践力、②情報の科学的な理解、③情報社会に参画する態度の3観点をより一層重視することとしています。そして、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方について、より広く、深く学ぶことを可能とするよう現行の科目構成が見直され、「社会と情報」、「情報の科学」の2科目が設けられました。

近年インターネットの利用が子どもたちの間に急速に普及する中で、インターネット上の誹謗中傷やいじめ、インターネット上の犯罪や違法・有害情報などの問題が発生しています。このため、新学習指導要領を踏まえ、子どもたちへの情報モラル教育の充実を図ることが重要です。共通教科情報科においては、各科目の内容に情報モラルを項目立てし、情報モラルを身に付けさせる学習活動を重視するなど、これまで以上に実践的な能力や態度が身につくよう内容の改善が図られています。そして、情報モラルについては、単に理解するにとどまることなく、態度や行動に表れることが求められます。

情報科は、その特性から授業で取り扱う内容が、情報通信技術の様々な進歩や状況の著しい変化から影響を受けることを避けることができません。従って、教科書に加え、生きた教材として最新のニュースを授業に活用していくことや、日々進歩を続ける情報通信機器の活用について、必要な知識や技術を身につけていくことなどが求められます。そのため、教える側も時代の変化に常に敏感であることが重要となります。

会員の皆様には、今後とも新学習指導要領についてより一層研さんを深められるとともに、情報科に関する実践研究を重ねられますようお願いいたします。そして、高教研情報部会が会員の先生方のさまざまな取り組みの支援と、実践研究の発表や協議をとおして、本県の情報教育のさらなる発展に大きな役割を果たされることをご期待申し上げます。